

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190201608		
法人名	社会福祉法人 三草会		
事業所名	グループホームもえれのお家篠路 郷		
所在地	札幌市北区篠路1条2丁目1-7		
自己評価作成日	令和4年10月31日	評価結果市町村受理日	令和5年2月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvogyoCd=0190201608-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvogyoCd=0190201608-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「グループホームもえれのお家篠路」は創成川通りに近い場所に立地しており、大型商業施設やバス停にも近く生活の利便性が高い事業所である。室内は中庭を中心に1フロアに2ユニットがある造りで明るく解放感があり、冷暖房やリフト浴など設備面でも充実している。壁には季節を感じる温かな装飾が施されている。  
 コロナウイルス感染拡大の長期化により外部との交流が難しいなか、近隣保育園の園児と窓越し面会を行い、節分の鬼のお面披露やよさこい演舞などことも達との関わりも大切にしている。運営推進会議は書面開催を継続しているが、毎回アンケートを実施し意見や質問を反映し事業所運営に活かすなど取り組みを行っている。コロナ禍で入館制限を行っているが、ガラス越しの面会やTV電話の活用のほか面会室も新たに整備し、入居者と家族が安心した環境で面会できるよう対応している。法人内で身体的拘束適正化委員会を立ち上げ、定期的に役員会や委員会、全体研修を開催し、より質の高いケアが提供できるよう継続的に取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和4年11月24日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市北区の幹線道路近くに位置する開設後3年ほどの2ユニットのグループホームである。2階建てで上階に2ユニットがあり、1階に小規模多機能事業所や多目的室がある。近くにバス停、ホームセンター、スーパー、小学校、公園などがあり、利便性に優れている。共用空間が広く清潔で、両ユニットが事務所、キッチンなどから気軽に行き来でき、居間の窓は中庭に面している。トイレが各ユニット4か所あり、浴室の湯船にはリフトが設置されるなど設備が整っている。運営法人が道内で数多くの介護施設を運営しており、職員教育、業務面の情報共有、医療支援の面など様々な支援が整っている。2か月ごとの運営推進会議は、現在書面会議となっているものの、メンバーからの意見を多く収集し、意見交換の場として十分に機能している。職員同士のコミュニケーションは良好で、また、職員が管理者や法人本部職員に意見を述べる機会も確保されている。ケアマネジメントの面では、利用者の趣味や嗜好、生活歴などを共有する仕組みができています。また、定期的なアセスメントを基にきめ細かな介護計画が作成されている。医療支援の面では2か所の医療機関による往診体制を整え、必要に応じた通院支援も行っている。快適でゆったりとした環境のもと、安心して過ごすことができるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(郷)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内の色々な箇所に理念を掲示し、職員が意識付けできるようにし、ご家族の協力を得ながらその人らしい生活が出来るよう努めている。	理念の中に「地域の中で、家庭的な雰囲気のもと～」という文言を掲げ、地域密着型サービスの意義を踏まえている。理念を玄関、事務所、談話室に掲示して職員の理解を促し、会議などでも内容を確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域との交流は難しい状況だが、施設周辺の散歩や買い物などを通し、地域の一員として生活している。	近くの保育園児が駐車場に来て、利用者と窓越しに交流している。同一法人が運営する事業所前のベーカリー職員とも交流できている。感染症が落ち着いたら、以前のように地域住民やボランティアとの交流を再開したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学者を受け入れ、事業所内の様子等を知って頂く機会を作っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は書面開催をし、意見がある際には返信して頂き、次回の会議で話し合い、サービス向上に活かしている。	現在は書面による運営推進会議を2か月ごとに開催している。メンバーは地域包括支援センター職員、町内会長、全家族で、計画的にテーマを設定し、メンバーから得られた意見を議事録に詳しく記載している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定調査やその他の手続等、市担当者と連絡を取り、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市や区の担当者といつでも相談できる関係を築いている。最近では主に感染症対策に関して市役所の協力を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束の勉強会を開催し、職員が正しく理解できる機会を設け、ケアに繋げられるよう取り組んでいる。	法人内で3か月ごとに身体拘束に関する委員会を開催している。身体拘束に関する勉強会を年2回行うべく年度内にもう1回行い、あわせて勉強会の資料や記録も整備する予定である。出入り口を施錠しているが、利用者でも開錠できるドアであり、出入りがあればセンサー音で分かるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する勉強会を開催し、正しい知識と意識を持ってよう、レポートの提出やカンファレンスなどで意見交換し、虐待の防止に努めている。		

グループホームもえれのお家 篠路

自己評価	外部評価	項目	自己評価(郷)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に管理者が対応しているが、事前面談をし家族の不安や疑問点などを聞き、理解し納得できるよう説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族にアンケートを配布したり、面会時などに要望や意見が聞ける機会を設けている。	広い多目的室を使い、利用者と家族が面会できるようにしている。家族の来訪時やケアプラン説明時に得られた意見をタブレット端末に入力し共有している。以前は家族向けの事業所便りを発行しており、再開を検討している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや日常の業務の中で、意見や提案をすることが出来ている。	月1回のユニット会議でケアプランの見直しや業務全般を話し合い、活発に意見交換している。年1回、職員と管理者の個別面談や本部職員も交えた面談を行っている。職員は室内装飾、行事、各種議事録作成などを分担している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談を行ったり、日々の業務の時にも希望や意見を聞き、環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の情報を共有し、希望があれば参加している。また、月一回の勉強会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で交流する機会は少ないが、委員会などの活動がある時には参加し、サービスの質の向上させる取り組みをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(郷)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が慣れるまで、様子観察や声掛けを通し、何に不安を感じ、何をしたいのかなど、ご本人の気持ちに寄り添い、安心できる環境を提供出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談で、困っている事や不安、要望等を敷くお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談の中で、家族や本人とお話しながら、今何が必要なのかを見極め、職員間でも情報を共有し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができる事は自分でやっていただき、家事などの作業を手伝ってもらうなど、施設の一員としての役割を持ってもらう事で、暮らしを共にする者同士という関係が築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や外出の機会を設けたり、受診に行っていたくなど、家族対応できる事はお願ひし、協力しながら支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で家族以外の方との交流はできていない。	3名ほどの利用者に友人や宗教関係の知人が来訪している。知人との手紙や電話のやりとりも支援している。通院帰りの馴染みの場所を通ってきたり、富良野出身の利用者が懐かしいと感じるラベンダーをプランターに植えることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話の合う人同士が、談話できるよう席に配慮し、コミュニケーションが難しい場合は職員が間に入り関わりを持てるよう支援している。		

グループホームもえれのお家 篠路

自己評価	外部評価	項目	自己評価(郷)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	夫婦で入所されていた利用者のご主人が退所されたが、相談があった時には出来る範囲で助言をするなどの支援をしている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いに寄り添い、自分らしく過ごせるよう生活のペースを大切に支援できるよう努めている。	半分ほどの利用者は言葉で思いや意向を表出でき、難しい場合も反応や表情から把握している。フェイスシートに趣味や嗜好を載せ、共有の端末に生活歴を載せている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで使っていたものを居室に置いたり、使用し、馴染みの暮らし方ができるよう、ご家族に協力して頂きながら、支援している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの様子を観察しながら、気が付いた事があればチーム内で共有し、現状の把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや日常の業務の中で、情報を共有し、その時その時にあった支援が出来るよう、意見交換し、現状に即した介護計画を作成できるよう努めている。	介護計画を3か月ごとに更新している。担当者と計画作成担当者が評価表を作成し、会議で職員の意見を集約している。端末で日々の記録を作成しているが、計画に沿った内容を分かりやすく記録できるようなシステムの利用を検討している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアコラボを使い様子を記録し、変化があった時は重要事項として細かく記録に残し、チーム内で情報共有し、見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診や買い物など本人のやご家族から要望があった際には、出来る限り対応している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で機会は減っているが、事業所周辺の散歩や買い物など、暮らしを楽しむ事が出来るよう支援している。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的にかかりつけ医が往診に来られている。急変時は、速やかに連絡し対応している。	2か所の医療機関(内科)による月1~2回の往診があり、ほとんどの利用者が受診している。その他は必要に応じて通院を支援している。往診記録を作成し、さらに受診内容を端末に入力している。		

グループホームもえれのお家 篠路

自己評価	外部評価	項目	自己評価(郷)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回訪問看護師が来られ、様子を伝え、必要に応じ適切な受診や看護が受けられるよう対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際は、速やかに情報を伝えている。また、入院中も情報交換し早期に退院できるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	何人かの利用者のご家族とは、看取りについて話し合い、書類を作成している。	利用開始時に「重度化に対する指針」を利用者および家族に説明し、同意書を得ている。過去に事業所で看取りを経験し、看取りに関する勉強会も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを施設内に掲示し、職員が理解できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し、避難方法が身につくよう努めている。	前年度は2回、夜間想定避難訓練を実施した。今年度は年度内にあと2回行う予定である。地震や水害への対応の確認は十分ではなく、救急救命訓練は実施後3年以上経過している。災害時に必要な備蓄品を用意している。	地震や水害の対応についての話し合い(年1回程度)と、各職員の救急救命訓練の受講(3年に1回程度)を期待したい。災害時における地域との協力体制の構築も期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人一人が心がけている。また、スピーチロウクの勉強会を行い、理解できるよう努めている。	年に1度は「接遇マナー」の勉強会を行い日々のケアに活かしている。プライバシーの確保のため申し送りや記録の保管に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護者本位の支援にならないよう心掛け、本人の選択できる機会を設けたり、希望を聞く等、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先するのではなく、本人の希望に沿って支援できるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの洋服をご家族に準備して頂いたり、ご自分で選択できるように支援している。		

グループホームもえれのお家 篠路

自己評価	外部評価	項目	自己評価(郷)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日常のメニューは決まっているが、行事食や弁当など、食事が楽しめる機会を設けている。	職員と一緒に盛り付けや食器の後片付けなどを行っている。お彼岸のおはぎ作りや好物の出前をとるなどの行事も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は記録し、把握している。状態に応じ、きざみ食やムース食などで対応し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、定期的に歯科衛生士から口腔ケアを受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立していない人の排泄のパターンを把握し、トイレ誘導を行い、トイレでの排泄ができるよう支援している。	端末で排尿と排便の記録を詳細に記録し、排泄のパターンに合わせ支援している。特に排便が数日ない場合は、すぐわかるシステムとなっており、乳製品や水分摂取などで対処している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じ、ヨーグルトや牛乳、野菜ジュースなどを提供し、予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の意向を尊重し、拒否があった時は無理強いないで、時間や日にちをずらしている。	週に2~3回は入浴できており、入浴を嫌がる利用者にはタイミングや言葉かけの工夫をし週1回は入れるようにしている。好みの温度や入浴剤を準備している。浴室にはシャワーチェアやリフトを設置している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に眠気が強い時は、居室で休んで頂いたり、夜間は温度や湿度に配慮し、気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情はいつでも見られるようにしている。薬が変更した際には、記録に残し、職員間で情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや食器拭きなどの家事手伝いをお願いしたり、散歩などで気分転換を図れるよう支援している。		

グループホームもえれのお家 篠路

自己評価	外部評価	項目	自己評価(郷)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出は出来ていないが、周辺の散歩や外気浴などは行っている。	感染予防を行いながら近所の公園や農園に出掛け外気浴を行っている。個人の希望に合わせ、眼鏡を購入するために外出する事もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持することはしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話をしたりLINE電話を活用したりしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に季節に合った装飾をしたり、温度や湿度に配慮している。	広々とした居間は中庭に面した大きな窓があり、明るく清潔な空間となっている。壁には装飾品が掲示されており季節感を感じることができるよう工夫されている。トイレや浴室には、手すりが設置されており身体状況に合わせて安全に利用できるようなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小リビングを作り、一人でもゆったりと過ごせる環境になるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に協力して頂き、使い慣れた家具や小物を居室に置いている。	介護用ベッドとクローゼットが設置され、室温が調整できるパネルヒーターに安全のため木製のカバーをつけている。家族や本人の昔の写真などを飾り、使い慣れたテレビなどを置き居心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札を付け自身の部屋がわかるようにしたり、動線に配慮し、家具の配置をし安全に過ごせるよう工夫している。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190201608		
法人名	社会福祉法人 三草会		
事業所名	グループホームもえれのお家篠路 畔		
所在地	札幌市北区篠路1条2丁目1番7号		
自己評価作成日	令和4年10月31日	評価結果市町村受理日	令和5年2月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvogyoCd=0190201608-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvogyoCd=0190201608-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「グループホームもえれのお家篠路」は創成川通りに近い場所に立地しており、大型商業施設やバス停にも近く生活の利便性が高い事業所である。室内は中庭を中心に1フロアに2ユニットがある造りで明るく解放感があり、冷暖房やリフト浴など設備面でも充実している。壁には季節を感じる温かな装飾が施されている。  
 コロナウイルス感染拡大の長期化により外部との交流が難しいなか、近隣保育園の園児と窓越し面会を行い、節分の鬼のお面披露やよさこい演舞などこども達との関わりも大切にしている。運営推進会議は書面開催を継続しているが、毎回アンケートを実施し意見や質問を反映し事業所運営に活かすなど取り組みを行っている。コロナ禍で入館制限を行っているが、ガラス越しの面会やTV電話の活用のほか面会室も新たに整備し、入居者と家族が安心した環境で面会できるよう対応している。法人内で身体的拘束適正化委員会を立ち上げ、定期的に役員会や委員会、全体研修を開催し、より質の高いケアが提供できるよう継続的に取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年11月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	○			○	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(畔)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスを理解したうえで法人の理念を踏まえ、事業所理念を職員で考え、玄関や事務所入口などに掲示し共有し実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域との関わりは減少しているが、感染対策を行いながら保育園の園児が作成した飾り物をプレゼントして頂いたり、町内会の方々には運営推進会議を通して事情所の活動内容を報告し地域との関わりが途切れない様にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で地域との直接の関わりは持っていない。電話での入居相談や見学対応の際などに、お困りごとの解消に向け助言等を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染拡大防止の観点から書面開催で行っている。頂いた意見等はサービス向上に繋がるよう取り組んでいる。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が、利用状況や活動内容等を定期的に市町村担当者に報告し連携を図っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で身体的拘束適正化委員会を設置し、定期的に委員会会議を開催。身体拘束の理解・防止に努めている。また、ユニット会議で勉強会を行い日々のケアを振り返り不適切なケアに繋がらないケア方法の検討を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に内部研修を行い、高齢者虐待防止法について学び虐待に繋がらないケアに努めている。		

グループホームもえれのお家 篠路

自己評価	外部評価	項目	自己評価(畔)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が内部研修で権利擁護について学び理解したうえで、管理者・計画作成が、ご本人・ご家族に必要性を伝え必要な時に活用出来る様に働きかけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面・口頭などでお伝えし、疑問点や不安があれば、説明し理解・納得に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に運営推進会議を開催しご家族・町内会・地域包括支援センターなどが参加し活動内容・利用状況などを説明し意見をお聞きし運営に反映させている。また玄関に意見箱を設置し要望・意見が言いやすい環境を整えている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員面談の中で意見を聞く機会を設けているほか、日々の業務やカンファレンス等でも意見を述べられる環境になっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員面談で職員個々の目標等を把握し、向上心を持って働けるようバックアップに努めている。コロナ禍の影響で定期昇給は見送りとなっているが、資格取得や研修参加への支援は受けられる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得、研修参加機会は確保されている。職員一人一人に役割を持たせ、責任を持って業務を行えるよう図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修やリモート研修等で交流の機会は保たれている。得た情報を事業所でも活用しサービスの質の向上に活かしている。		

グループホームもえれのお家 篠路

自己評価	外部評価	項目	自己評価(畔)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談の際に管理者・計画作成が、ご本人に困りごとや不安な事をお聞きしサービスが開始になるまで出来る限り安心できる関係性や環境作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談の際に管理者・計画作成が、ご本人の話をお聞きした上で、ご家族に困りごとや不安等をお聞きし、ご本人の気持ちと照らし合わせ、ご家族が安心できる関係作りにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点で、他のサービスが必要な場合は、他のサービス事業所と連携し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に出来る家事や作業など、入居者の状態に合わせて職員と一緒に出来る事で関係性を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今までの絆を壊さぬように、ご本人とご家族の意見や要望に大きな相違がない様に配慮に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍もあり友人と会う事や馴染みの場所などに外出するなどの機会は減っているが、電話で会話したり自室でも馴染みの物などを使用したりして馴染みの関係性が途切れないように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルにならないように声掛けや介入を行う事で認知症状が違入居者様同士が孤立せず支え合い生活を送っている。		

グループホームもえれのお家 篠路

自己評価	外部評価	項目	自己評価(畔)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了する間に不安がないよう、ご本人やご家族に相談や支援が出来る旨を伝え、他のサービス事業者と連携が図れるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の何気ない会話から気持ちを汲み取り職員やご家族と情報を共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族・友人等から生活歴をお聞きし情報を把握し支援に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の心身状態や生活リズム等を記録に残し職員間で情報共有し把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者にモニタリングをしてもらい計画作成と話し合いユニット会議でモニタリングについて話し合い課題分析を行いケア方法を検討し介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアコラボに心身状態を記録し職員が共有出来る様になっており、モニタリングやアセスメントに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	重度化や医療支援などが多くなり、施設での生活が困難になった際は、ご本人・ご家族に話をお聞きし、その方にニーズに合ったサービスの提案を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍もあり、個々の社会資源を活用する事は減っているが事業所で、訪問理美容や牛乳宅配など活用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度の訪問診療受け心身状態の報告をし体調の変化に早期発見できる様、努めている。また、ご本人・ご家族の要望があれば訪問診療の医師と相談し専門医への受診を行っている。		

グループホームもえれのお家 篠路

自己評価	外部評価	項目	自己評価(畔)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一度の訪問看護を受け、心身状態の報告をし指導・助言を受け訪問診療などの医療機関と連携が図れる様、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は、医療機関と連携し心身状態を情報提供し、適切な治療ができ早期に退院が出来るよう努めている。また、入院中の状態や退院の際の心身状態の情報交換し職員と情報共有し退院後の支援に繋げている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現時点での終末期に対する意向をご本人・ご家族からお聞きし、職員・医療機関等に情報共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な内部研修を行い、救急対応等きや応急処置について学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍もあり、地域の方の参加は出来ていないが、定期的に災害訓練の訓練・研修を行い災害時に実践出来るよう力を身につけている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の認知症状に合った声掛けを行い支援をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で何気ない言葉から希望・要望を汲み取り、その方に合った言葉かけし自己決定出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や気分に合わせて個々が過ごしたい場所で過ごしてもらえるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの化粧品を使用したり、好みの洋服を自己選択や自己決定できる様、環境整備を行うなどの工夫をしている。		

グループホームもえれのお家 篠路

自己評価	外部評価	項目	自己評価(畔)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人・ご家族から好き嫌いをお聞きし嫌いな物は代替品などを提供。また、職員と一緒に「盛り付けや食器拭きなども行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成するメニューに基づいて調理している。その方の状態に応じた食事形態を提供。水分量は記録で管理し、出来るだけ好みの物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方の出来る能力に応じて、声かけや準備など行っている。また週に一度、歯科衛生士による口腔ケアを実施し口腔内の清潔に努めている。また口腔内のトラブルがあれば相談し指導・助言を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の排泄間隔を記録に残し排泄パターンをアセスメントしたうえで職員で検討しその方に合った排泄支援を行う事で失禁の回数を減らしトイレ内での排泄が可能となっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を提供したり、医療機関に相談・助言を受け必要に応じて下剤「使用し便秘解消に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を決めず声掛けにて入浴する日を個々で決めて頂いている。また、入浴が楽しめる様に入浴剤などを使用し気持ちよく入浴が楽しめるよう工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室の温度・明るさ・体勢など状態や状況に応じて対応し安心して休めるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬剤や副作用について職員が把握し体調の変化に早期に発見できる様努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に応じて、役割を持ち家事や作業活動、また趣味活動(手作業・音楽鑑賞など)楽しみながら気分転換の時間を過ごしている。		

グループホームもえれのお家 篠路

自己評価	外部評価	項目	自己評価(畔)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍もあり、外出の機会は減っていたが、今年に入り、感染対策について理解して頂き、短時間の外出支援を行う事が出来ている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理をしたいと希望のある方はご家族の了承を得た上で少額自己管理している。時々、1階の自販機へジュースを買いに行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を使用している方は使用方法が分からない時もある為、支援している。また、事業所の電話を使用しご家族・友人などと会話を楽しんだりしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内の温度・湿度・明るさ・テーブルの配置など工夫し集団の空間だけではなく個別の空間も作り自分の時間がもてるよう工夫している。また、季節の飾りやカレンダーなどで、季節感や日付の確認ができるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	集団が苦手な方には個別の空間を作り落ち着いた時間を過ごせるよう配慮している。またテーブルの配置も馴染みの関係性が築けている方と楽しい時間が過ごせるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や物などを使用し居心地の良い環境を作っている。また認知症の進行に伴い物品管理等が出来なくなってきた方に対しては職員が介入し一緒に行う事で居心地の良い環境を作っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーとなっている。階段とエレベーターがある為、その方の出来る能力によって使い分けている。また、自室には表札、トイレや浴室など共用部にもわかりやすく扉に表示されている。		



目標達成計画

事業所名 グループホームもえれのお家篠路

作成日：令和 5年 2月 8日

市町村受理日：令和 5年 2月 10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	○災害対策 コロナ禍において、地域住民の協力や理解を得ながらの災害訓練が実施が難しい状況である。救急救命訓練を実施してから3年以上経過しており、発生時に速やかに対処するためにも研修を必要としている。	地震や水害時等状況に応じた対応について職員や地域住民と共通理解に努め、発生時は速やかに行動できるようにする。	次年度は、災害時のBCP作成を予定している。また、対面での運営推進会議を予定しており、地域との協力体制の構築に努めたい。救急救命訓練については、今後研修を行う予定とする。	次年度中
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。